



東北大学

報道機関各位



東北メディカル・メガバンク機構  
TOHOKU MEDICAL MEGABANK ORGANIZATION

平成 26 年 12 月 17 日

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

## 震災後の子ども 12,000 人を調査

### -宮城の児童・生徒のアンケート調査-

東北大学東北メディカル・メガバンク機構は平成 24 年度より宮城県内の小中学生の保護者を対象に「地域子ども長期健康調査」を実施し、平成 26 年度は 6,451 人、3 年間で累計 12,669 人にご協力いただいています。

平成 26 年度のアンケート調査の結果から、日常生活で何らかの難しさを抱えていると疑われる子どもは 988 人、重い症状があるのに治療も診断も受けていない子どもは、気管支ぜんそくで 42 人、アトピー性皮膚炎で 85 人いることがわかりました。また 3 年間の累計では、日常生活で何らかの難しさを抱えていると疑われる子どもは 1,784 人、重い症状があるのに治療も診断も受けていない子どもは、気管支ぜんそくで 83 人、アトピー性皮膚炎で 131 人に上ることもわかりました。

本調査に加えて、保護者の方がご希望される場合は、アンケート調査の結果から相談や支援が必要と考えられる方への電話相談や面談を行っています。平成 26 年度は 14 人への電話相談、希望に応じた面談を行い、3 年間ではのべ 1,601 人へ電話相談とのべ約 100 回の面談を実施してまいりました。

この調査は、東日本大震災後の子どもたちに病気の増加や症状の悪化の懸念があることに対して、

1. 子どもたちの健康の実態を把握して、対策をたてること
2. 心配な点のあるお子さんへの、適切な支援を行うこと
3. 最先端の医学的支援によって、症状や予後がよくなるお子さんをいち早くみつけること\*1

を目的としています。

## 【東北大学東北メディカル・メガバンク機構 地域子ども長期健康調査事業詳細】

### ■平成 26 年度の対象者

対象エリアの公立小学校 188 校・中学校 92 校・支援学校 9 校の小学 2 年・4 年・6 年生と中学 2 年生の児童・生徒 28,159 人に、学校を通じて「子どもの健康に関するアンケート」を配布し、ご家庭に持ち帰って保護者の方にご記入いただき、6,451 人(有効回答数)からご返信をいただきました。

### ■平成 26 年度の対象エリア

調査対象エリアを宮城県 25 市町村(気仙沼市、白石市、名取市、角田市、登米市、栗原市、東松島市、大崎市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町、七ヶ浜町、大和町、大郷町、大衡村、色麻町、加美町、涌谷町、美里町、女川町、南三陸町)に拡大しました。

### ■平成 26 年度の調査結果の概略

呼吸器や皮膚の症状として、気管支喘息の症状のある子どもは 643 人、アトピー性皮膚炎の症状がある子どもは 1,360 人でした。強い症状があるのに治療も診断も受けていない子どもは、気管支ぜんそくで 42 人、アトピー性皮膚炎で 85 人でした。

こころの健康アンケートとして SDQ (Strengths and Difficulties Questionnaire)\*2 を実施したところ、毎日の生活に何らかの難しさを感じていて、支援が必要と思われる子どもが 988 人いることがわかりました。なお居住環境の変化および津波経験の有無は、アトピー性皮膚炎の有症率および SDQ 尺度有所見の割合の高値と関連がありました。調査の集計結果は、保健行政に役立ててもらうため市町村にお知らせしています。

### ■平成 26 年度の支援

結果の郵送を希望された方には、子どもの成長発達に関するヒントをまとめたリーフレットを同封するとともに、当事務局運営の電話相談窓口の案内を行いました。

また、気管支喘息やアトピー性皮膚炎と診断されている子どもで、現在それらの症状があるものの治療を受けていないと回答した保護者には、結果回付の際に適切な対処方法に関する資料を送りました。

相談窓口には、こころに関して 13 件、からだに関して 1 件の相談の電話があり、臨床心理士と保健師が対応し、保護者の希望に応じて面談も実施しました。

### ■平成 25 年度までの調査について

地域子ども長期健康調査では平成 24 年 11 月に宮城県岩沼市、亘理町、山元町の公立小中学校で事前調査を、平成 25 年 6 月に県南部の公立小中学校で本調査をおこないました。公立小学校・中学校の小学 2 年・4 年・6 年生と中学 2 年生の児童・生徒の保護者にアンケートをお答えいただいた結果から、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、PTSD、広汎性発達障害等の可能性がある児童が見いだされています。また治療に関しては、気管支喘息で重度の症状があるにも関わらず、治療をしていない児童がいることが判明しています。

■地域子ども長期健康調査は、三世代コホート調査の一部として東北メディカル・メガバンク事業により実施されています。

### 【用語解説】

\*1：診断上必要あるいは難治性疾患で新たな治療法開発が必要な場合、別事業として、保護者の方の同意のもと遺伝子解析を含む詳細な検査を実施して、最先端の医学的支援を該当するお子さんに行う可能性があります。

\*2：SDQ (Strengths and Difficulties Questionnaire)：これは子どもの精神的な適応の状態を調べるための 25 項目・3 択式の質問紙形式の心理尺度です。世界中の言語で標準化されて使用されており、Conduct Problems Score(行為問題)、Emotional Problems Score(情緒問題)、Hyperactivity Score(多動)、Peer Problems Score(友人関係問題)、Prosocial Behavior Score(向社会性)の 5 つの下位尺度で構成されています。質問項目は、日本版に標準化されたものを使用しています。

平成 19 年 1 月に厚生労働省から発表された「軽度発達障害児に対する気づきと支援のマニュアル」において、行動評価法として広く一般に紹介されています。16 点以上が臨床域としてのカットオフポイントとして提案されています。

本調査では、対象地域の子どもたち全体の精神健康状態を包括的に把握しつつ、一人ひとりの子どもに応じた詳細なアセスメントおよび支援を行っていくためのスクリーニングとしても使用しています。

原典の URL <http://www.sdqinfo.com/>

日本語版に関する論文

T.Matsuishi et al.: Scale properties of the Japanese version of the Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ): A study of infant and school children in community samples. Brain and Development 2008; 30 (6): 410-415.

### 【参考】

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

<http://www.megabank.tohoku.ac.jp/>

地域子ども長期健康調査

<http://www.megabank.tohoku.ac.jp/guidance/activities02-healthsurvey.html>

(お問い合わせ先)

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

予防医学・疫学部門 分子疫学分野

菊谷 昌浩 (きくや まさひろ)

電話番号： 022-717-8104

(報道担当)

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

長神 風二 (ながみ ふうじ)

影山 麻衣子 (かげやま まいこ)

電話番号： 022-717-7908

ファックス： 022-717-7923

Eメール： [f-nagami@med.tohoku.ac.jp](mailto:f-nagami@med.tohoku.ac.jp)